

2010年5月10日

アライアンス・バーンスタイン*

ギリシャ財政危機によるグローバル市場の混乱について

ギリシャの財政危機が他のユーロ圏諸国に拡大するとの懸念が高まったことから、ここ数日間にわたり世界各国の株式市場が大幅に下落しました。とりわけ、ポルトガルやスペインに対する懸念が著しく増大しましたが、その他の国々に対しても不安が広がっています。

5月6日（木曜日）には市場の乱高下が一段と激しさを増し、米国のS&P 500指数が一時9%近く急落した後に急反発し、結局3.2%安で引けるという展開になりました。これを受け、翌5月7日（金曜日）のアジアおよび欧州市場では投資家によるリスク回避の動きがさらに進み、金、米国債、ドイツ国債の価格が上昇するとともに株式市場は下落しました。さらにS&P 500指数も同日は1.5%の続落となりました。

アライアンス・バーンスタインでは、ギリシャ、ポルトガル、スペインの債務問題に関するリスクは明らかに上昇したと見ています。この危機がいかなる経路を経て実体経済へと伝播するののかについては、ユーロの為替レートが下落し、短期金利が安定していることなどもあり、現段階では明確ではありません。しかし、いずれかの国において突如デフォルト（債務不履行）が生じた場合には、欧州金融システムへの打撃やグローバルな投資家心理への悪影響は甚大なものがあると考えられます。投資家の間でパニックが広がることは間違いないでしょうが、市場への実際の影響は複雑で、安易な憶測は禁物であると考えています。

しかしながら、この混乱がデフォルトや債務リストラといった重大な事態に悪化しない限りにおいては、欧州を含む世界各地で進行中の景気回復を頓挫させるには至らないと見ています。ギリシャ、ポルトガル、スペインの3国の国内総生産（GDP）は、合計してもユーロ圏全体の16%を占めるに過ぎません。さらに、少なくともこれまでのところ、欧州経済への影響は軽微なものにとどまっています。例えば、直近の統計では、3月のドイツ製造業受注が5%上昇しており、ユーロ圏中核国の4月の購買担当者指数（PMI）は、製造業・非製造業ともに引き続き堅調に推移しています。

市場の関心は、債務危機が欧州諸国で広範に拡大するかという点に集中していますが、実体経済や企業収益に関するニュースは、おおむね明るいものとなっています。例えば、現在世界の企業の半数以上が前四半期の業績を発表していますが、そのうち62%が市場予測を上回る売上、71%が市場予測を上回る収益を達成しています。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は情報提供のみを目的としており、アライアンス・バーンスタイン（アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。）が作成したものを、アライアンス・バーンスタイン株式会社が翻訳・作成したもので、いかなる場合も当資料に記載されている情報は、投資助言としてみなされません。当資料は信用できると判断される情報をもとに作成しておりますが、その正確性、適時性を保証するものではありません。また、当資料に掲載されている予測、見通し、見解のいずれも実現される保証はありません。当資料は2010年5月7日現在のものであり今後予告なしに変更することがあります。当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数の開発元または公表元に帰属します。



政府債務問題は、持続的な経済成長によって解消されます。税収が拡大し、財政リストラの痛みが軽減されるからです。しかし、欧州を含む世界の多くの国々が、ようやく景気後退から脱した直後でもあり、財政の健全性を取り戻すには時間を要します。

長期にわたる問題ではありますが、当面の危機に関しても、各国政府や中央銀行が近年の金融危機の経験を活かし、きわめて低水準の金利など、あらゆる手段を通じて市場の秩序や経済成長を維持するものと見えています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーと傘下の関連会社を含みます。
将来の市場環境の変動等により、上記の見通しに変更される場合があります。



アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】社団法人投資信託協会／社団法人日本証券投資顧問業協会